

【小学校 算数】

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の小学校算数の正答率は54%で、全国の平均正答率から▼2.4%、県の平均正答率から▼1.0%下回りました。「データの活用」における領域で、根拠を説明できるかどうかをみる問題の平均正答率は60.4%で、全国の平均正答率と比べ△4.2%、県の平均正答率と比べ△0.1%上回りました。また、「図形」における領域で、体積の意味について理解しているかどうかをみる問題は平均正答率32.6%（全国40.1%、県33.0%）、「変化と関係」における領域で、割合の関係が正しく表されて図を選ぶ問題は平均正答率28.6%（全国36.1%、県32.6%）と大きく下回っています。

2 特徴が見られた問題

4 (1) (集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する問題)

表1 1年生の各学級の人数 (人)				
学級	1組	2組	3組	合計
人数	29	30	28	87

表2 1年生が選んだ遊び (人)				
遊び \ 学級	1組	2組	3組	合計
ボール遊び	9	14	8	31
おにごっこ	8	7	10	25
昔遊び	12	6	10	28
合計	29	27	28	84



1年生全員からアンケートを集めたのに、表2には、全員分のアンケートが整理されていないのではないのでしょうか。



全員分のアンケートが整理されていない学級があります。

表1と表2を見ると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」が1つあることがわかります。

「全員分のアンケートが整理されていない学級」は何組ですか。その学級を書きましょう。

また、そのことは、表1のどの部分と表2のどの部分と比べるとわかりますか。言葉と表1と表2の の中の数を使って書きましょう。

(正答)【学級】2(組)

(例) 表1の2組の人数の30と表2の2組の合計の人数の27を比べると、「全員分のアンケートが整理されていない学級」は2組と分かります。

本市の平均正答率は(60.4%)、全国の平均正答率(56.2%)県の平均正答率(60.3%)で、全国を上回りました。記述式の問題でしたが、日々の学習活動の中でデータの活用に親しむことができている児童が多いと考えられます。

1 (3) (体積の意味を理解しているかどうかをみる問題)

本市の平均正答率等は上記(1 平均正答率等について)の通りです。体積の意味についての理解が不十分であると考えられます。

2 (4) (正しく表されている図を選ぶ問題)

本市の平均正答率は(30.5%)、全国の平均正答率(33.5%)県の平均正答率(31.5%)で、全国を下回りました。問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることができていないと考えられます。

3 これからの学習に当たって

「体積」の理解については、「体積」の理解については、公式を用いて求めるだけでなく、「1cm³を単位とした立方体は何個分あるか」を具体的な操作を通して捉える学習活動を充実させる必要があると考えています。

「変化と関係」の領域では、「基準量」と「比較量」の関係を関係図やテープ図に描いて表すプロセスを日常化し、求めた商や割合が何を意味しているのかを言葉や図を用いて相互に説明し合えるような学習活動が必要であると考えています。

(3) 1cm³の立方体が36個あります。36個をすべて使って、高さが4cmの直方体を1つ作りました。
その直方体の体積は何cm³ですか。
答えを書きましょう。

(正答):36 (cm³)

(4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図はどれですか。
下のアからカまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

(正答):ア、オ

